

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.37 (1999.10.5号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1999.12.11. ; 7,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

被災地発, 全国のみなさまへー“仮設が失くなくても...”

[阪神大震災・生活支援]

今も毎日のように、被災された方々を励ます手紙、物資、カンパが届けられ、震災支援の灯がともされ続けていることを心より感謝致します。

“仮設”という名の避難生活もまもなく5年、一切の可能性を閉ざされた方々が取り残され、移転が成った方々も、今度は扉に閉ざされ、外出すらままならず、孤立化がめだっています。

8月22日、神戸市長田区最大の西代仮設での“仮設生活4年半ーさよなら夕涼み会”には、移転された方々が、思いもよらず大勢来られ、口々に再会の喜びと孤独を訴えられ、172名の参加者共々、改めて、人の絆の大切さと、“移転＝孤立”の流れを確認し合いました。

孤立化が進み、震災の記憶も薄らいでいく中、ますます多くのボランティアの働きが必要となってきました。この夏もまた、松原三中（大阪府）の皆さんが、仮設住宅や移転先に高齢の方々を訪ね、手紙を渡したり、交流の場をもつことができ、冬の再会も約しました。

都市化の進行が、横のつながりを薄れさせ、ひとたびバランスをくずすとたちまち空洞化が始まることを、この度の震災が浮き彫りにしました。トルコや台湾でも、阪神大震災と同様のことが起こり、多くの救援活動が行なわれていますが、被災して全てを失くした方々や子供たちにとっては、一生に亘る、特に心のケアが必要となってきました。

震災を風化させず、多くの尊い犠牲を教訓として永く心にとめ、いつも鮮明に生かしていくためにも、これからが正念場と言えるでしょう。全国の皆様、今後共より一層の支援とカンパをお願い申し上げます。

<鄭チョン>

[写真あり 西代仮設・さよなら夕涼み会に集う 省略]

(c)1999コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)